



FUKUSHIMA 市民インタビュー

このコーナーでは、福島市のさまざまな分野で活躍する人や団体を紹介します。今回は、民生委員を信夫方で43年にわたって務めている、福島市民生児童委員協議会会長の長尾和榮さんにインタビューしました。

🍷 活動を始めたきっかけは？

父と叔父が民生委員を務めていて、それを引き継ぎ32歳で始めました。始めた当時は会社に勤めながら、時間を作って会合に出席するなどして活動を続け、今年で43年目になりました。

🍷 活動内容は？

生活や福祉に関するあらゆることで地域住民の相談相手となり、住民と行政や専門機関とのパイプ役を担っています。そのため、支援が必要な方々を定期的に訪問する見守り活動などを通じて、自分の担当地区に住んでいる方の状況把握に努めています。最近では、離婚や薬物乱用の問題など専門的な相談もあります。また、対象も児童から高齢者までと幅広いため柔軟な対応が求められます。

🍷 特に大変なことは？

情報収集をすることで地域の情報を多く取り入れ、困っている方に適切なアドバイスができるよう、町内会や老人クラブなどの自治組織の会合に出席しています。同時に、複数の組織と情報を共有し、有事の際に連



福島市民生児童委員協議会
会長 長尾 和榮さん

携を図れるようにしています。

市から委託を受け、年に1回、65歳以上の対象者を訪問し、生活実態を聞きとる「高齢者調査」は、断られることや対象者が不在のことも多く大変ですが、高齢者は1年で体調や環境が変化することもあるため、とても大切な活動だと思っています。

🍷 やりがいは？

困っている人の問題を解決できた時にやりがいを感じます。一人暮らしの高齢者宅に訪問し、動けなくなっているところを発見したことがあります。病院や行政などの関係機関に連絡し、連携

を取りながら対応したことで、後日その方が無事回復したと連絡を受けた時はうれしかったですね。

🍷 今年で民生委員制度創設100周年。今後の展望は？

例年、5月12日の「民生委員の日」に県内で啓発事業を行っています。加えて今年9月18日に、街なか広場で開催のイベント「ふれあい広場」で100周年記念の啓発活動を行います。また、民生委員の高齢化は大きな課題です。地域社会の活性化のために、若い方にも民生委員の活動内容をもっと知っていただき、地域のためにぜひチャレンジしていただきたいですね。

市長コラム No.17

「オペラと地元の英雄

佐藤一族

福島市長 小林 香

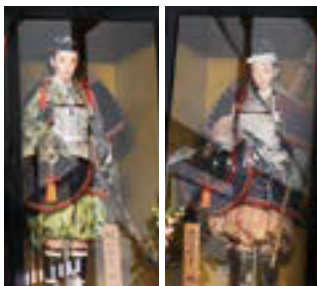


市制施行110周年のシンボルイベントの一つとして、9月23日(土)にオペラ「乙和の椿」を音楽堂で開催します。このオペラは、平成7年に開催されたふくしま国体に合わせて創作されたオペラで、飯坂町の医王寺に残る「乙和の椿」の逸話を題材にしたものです。

「オペラ」と聞くと堅苦しいイメージを持たれる方も多いかと思いますが、歌うことが好きな私にとって、合唱やオペラ鑑賞は人生に欠かすことのできないものです。合唱と出会ったきっかけは、大学卒業後に気分転換で当時住んでいた府中市の市民コーラスサークルに参加したことでした。約10年在籍し、会長も経験しましたが「府中の森芸術劇場」や「サントリーホール」で約1時間にも及ぶ詩歌集「カルミナ・グラナーナ」を歌ったことは忘れられない思い出です。一方オペラについては、新宿文化センターこけら落としとして上演されたオペラ「蝶々夫人」を観に行き、その素晴らしさに魅了されました。さらに「椿姫」「カルメン」、埼玉県民オペラ「秩父晩鐘」にコーラスとして参加したことも相まって、どんどん好きになっていきました。

オペラは、音楽だけでなく舞台装置や衣装など芸術の要素が詰まった総合芸術だと思います。その中でも、私は人間の歌声や舞台の素晴らしさに感動いただけるものと感じています。仮に日本語ではない上演だとしてもあらずじま予習して行けば充分楽しめますし、予習して行かなくても会場に響き渡る人間の声の素晴らしさに感動いただけるものと思います。

今回上演する「乙和の椿」は、武士の台頭により源平の争いが続いた平安末期、陸奥の国(現在の東北地方)において仏教を基本とした平和的な国づくりを行った奥州藤原氏に臣従し、姻戚関係にもあった飯坂の名族・佐藤一族の物語です。佐藤一族の家族の深い絆を感じる事ができる「乙和の椿」をぜひご覧いただき、佐藤一族をもっと知っていただければと思います。



▲医王寺にまつられている佐藤継信・忠信兄弟の妻「若桜」と「楓」の甲冑姿の人形(P 3参照)